

Quest® Migrator for Notes to Exchange 4.13

リリースノート

2016年3月

このリリースノートでは、Migrator for Notes to Exchange 4.13 リリースに関する情報を提供します。

- [Migrator for Notes to Exchange について](#)
- [機能強化](#)
- [解決済みの問題](#)
- [既知の問題](#)
- [システム要件](#)
- [アップグレードと互換性](#)
- [製品のライセンス](#)
- [MNE をお使いになる前に](#)
- [グローバル化](#)
- [Quest について](#)

Migrator for Notes to Exchange について

Quest Migrator for Notes to Exchange (MNE) は、Lotus Domino サーバー (Lotus Notes クライアントを使用) から Microsoft Exchange (Outlook クライアントを使用) に移行する組織のさまざまな移行戦略を手助けする目的で設計された、連携して動作する一連のソフトウェア アプリケーションです。MNE は、独自の Exchange 環境、または Microsoft Office 365 などのホスト型 Exchange サービスのいずれかに移行できます。

MNE 4.13 は拡張機能が追加されたマイナー リリースです。以下の「[機能強化](#)」および「[解決済みの問題](#)」を参照してください。



注: 本リリースでは、MNE が移行先として Exchange 2007、移行元環境として Domino/Notes 5.x をサポートしなくなりました。

機能強化

機能強化	問題 ID
環境変数のサポート: SSDM で、SelectedPstDir の %UserProfile%、notesdtapp.ini ファイルの CurArchiveDir 設定などの環境変数がサポートされるようになりました。	604641 595412
自動検出の無効化オプション: Exchange 設定の自動検出更新を無効にする INI 設定が追加されました。	596720

機能強化	問題 ID
MIME メッセージフォーマットの改善: フォーマットの不適切な MIME メッセージの処理が改善されました。	591423
Outlook 2016 の SSDM サポート: Exchange のメールボックスを操作する際に、Outlook で提供される API を MNE が使用します。SSDM が、Outlook 2016、および Outlook 2007、2010、2013 で提供される API を使用して移行できるようになりました。	590191
SSDM の復号化の改善: 添付ファイル付きの暗号化メッセージに対する SSDM の復号化処理が改善され、メールファイルへのアクセスが読み取り専用となっている移行後ユーザーの復号化がうまく処理されるようになりました。この改善された復号化方法も、RTF の書き換え (<i>RewriteRTF=1</i>) の場合は埋め込み OLE オブジェクトで失敗しますが、Notes クライアントの制限です(そのシナリオでも失敗します)。	564441
SSDM の改善: スケジュールが有効で、ユーザー名に特殊文字が含まれているシナリオを、SSDM がうまく処理できるようになりました。	520649
アクセス権と委任の移行の更新: アクセス権と委任の MNE 移行が更新され、Exchange の権限と許可が移行元の Notes に近いものとなりました。この強化項目には以下が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> • オンプレミス Exchange に移行された委任ユーザーが、<i>Contacts</i> フォルダで適切な権限を持つようになり、<i>Calendar</i> および <i>Tasks</i> フォルダでも同様です。 • <i>Calendar</i>、<i>To Do</i>、および <i>Contacts</i> に対する <i>Public Write</i> 権限を持つが、Notes の <i>Mail</i> では権限を持たない Notes 委任ユーザーが、Office 365 に委任ユーザーとして移行され、<i>Inbox</i> にはフォルダ権限を持たないようになりました。 • <i>Mail</i> の権限が読み取り専用の Notes 委任ユーザーは、Exchange (オンプレミスまたは Office 365) に委任ユーザーではなく、適切なフォルダ権限のみを持つユーザーとして移行されます (Exchange に委任として移行されると Exchange で「代理送信」権限が与えられ、Notes でそのユーザーが利用可能な権限を超過してしまいます)。 • <i>Mail</i> に対しては <i>No Access</i> だが、<i>Calendar</i>、<i>To Do</i>、および <i>Contacts</i> に対しては <i>Read Public + Write Public</i> 権限を持つ Notes 委任ユーザーが、委任ユーザーとして移行されるようになりました。<i>Mail</i> に対しては <i>No Access</i> だが、<i>Calendar</i>、<i>To Do</i>、および <i>Contacts</i> に対しては <i>Read Public</i> 権限を持つ Notes 委任ユーザーは、Exchange の <i>Calendar</i>、<i>Tasks</i>、および <i>Contacts</i> で <i>Reviewer</i> 権限を持ちますが、委任ユーザーとしては移行されなくなりました。 	503013
Notes の FYI 会議参加者を Exchange の bcc フィールドに移行するオプション: MNE で、Notes 会議の FYI 参加者を Exchange の <i>bcc</i> フィールドに移行できるようになり、そこで参加者は以前の MNE リリースのような <i>cc</i> フィールドではなく、リソースとして表示されます。主催者が後から会議を変更した場合、このオプションでは FYI 参加者が非表示に保たれます。Exchange はそのような変更の通知を送信し、その通知では FYI 参加者が <i>任意出席者</i> として公開されるからです。この機能は、タスクパラメータおよびグローバルデフォルト値の [Exchange] セクションに追加された新規ブルプログラムパラメータにより、Data Migration Wizard (データ移行ウィザード) で有効 / 無効にすることができます。 MigrateMeetingFYIAsResource=[#] 同じ機能は、SSDM で使用することもできます(ただし、 <i>notesdtapp.ini</i> 内の同じパラメータ)。 デフォルト (<i>MigrateMeetingFYIAsResource=1</i>) では、MNE が Notes 会議の FYI 参加者を Exchange の <i>bcc</i> フィールドに移行するようになりました。この機能を無効にし(0)、以前の MNE リリースと同様、MNE に FYI 参加者を <i>cc</i> フィールドに移行させることもできます。	496087
ユーザーのプロビジョニングタスクをサポートする設定テンプレート: テンプレートでタスク設定を省力化する機能が、ユーザーのプロビジョニングタスクにも拡大されました。さまざまなテンプレートを選択して、さまざまなユーザーコレクションに適した一連の設定オプションを実行できるようになりました。	494940
PowerShell のマルチドメインスコープオプション: MNE の現在の PowerShell セッションの受信者範囲が、ローカルドメインのみに限定されることなく、フォレスト全体にまで拡大されました (Exchange 2010 または 2013 のみ)。この機能は、タスクパラメータおよびグローバルデフォルト値の [Exchange] セクションに追加された新規ブルプログラムパラメータにより、有効および無効にすることができます。 ViewEntireForest=[#] 次のようなエラーが発生した場合は、この機能を有効 (<i>ViewEntireForest=1</i>) にしてみてください。 要求された検索ルート '{SearchRoot}' は、この操作の範囲の中にありません。 スコープ '{Scope}' の外側を検索することはできません。 この機能は、デフォルトでオフ(0)になります。	484259

機能強化	問題 ID
<p>メールインデータベースの結果をコマンドレットで利用可能: Get-MNEMigrationResult コマンドレットが拡張され、メールインデータベースの移行結果を戻すようになりました。</p>	478582
<p>ドイツ語のチャットトランスクリプトの移行: MNE のカスタムフォルダマッピングで、IBM の SameTime で作成されたが Notes のカスタムフォルダに保存された、ドイツ語のチャットトランスクリプトの移行をサポートするようになりました。カスタムフォルダマッピングは、MNE の『プログラムパラメータリファレンス』に説明があります(「言語セクションについて」を参照)。</p>	469656
<p>新規および更新された PowerShell コマンドレットが自動スクリプトをサポート: MNE の PowerShell ツールに新しい 2 つのコマンドレットが追加され、既存の 2 つのコマンドレットが強化されて、自動スクリプトのサポートが改善されました。2 つの新しいコマンドレットは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Remove-MNECollectionMember: 指定されたオブジェクト(GUID、SMTP アドレス、または渡すことで選択)を指定されたコレクション(GUID で選択)に移動し、オブジェクト GUID、SMTP アドレス、または <i>CollectionMember</i> が入力で指定されているかどうか検証します。 • Remove-MNETask: スケジュール設定された操作からタスクを削除します。 <p>既存の <i>Get-MNECollection</i> コマンドレットが次の追加パラメータをサポートするようになりました。</p> <p style="padding-left: 20px;">-CollectionType <NmeCollectionType></p> <p>これは、検索対象のコレクションタイプを指定します。</p> <p>また、既存の別のコマンドレット <i>Get-MNECollectionMember</i> が、ユーザーまたはグループコレクションに適用されるようになりました。</p> <p>新規および更新されたコマンドレットの詳細説明が、本リリースに付属する最新の『管理ガイド』の第 16 章に記載されています。</p>	468435
<p>Provisioning Wizard(プロビジョニングウィザード) 設定テンプレート: Provisioning Wizard(プロビジョニングウィザード) では、ウィザードの設定画面にある一連のエントリをテンプレートとして保存し、呼び出すことができます。これにより、同じような構成で複数回実行することが予想される場合に後でウィザードを簡単に実行できます。これは、Data Migration Wizard(データ移行ウィザード) ですでに利用できる機能と同じで、それが Provisioning Wizard(プロビジョニングウィザード) に追加されました。このような各構成テンプレートは、ウィザードのすべての画面のエントリで構成されます。MNE の『管理ガイド』と Provisioning Wizard(プロビジョニングウィザード) の Help(ヘルプ) ファイルがこのリリースに合わせて更新され、新機能が記載されています。</p>	464402
<p>Manage Scheduled Operations(スケジュール設定された操作を管理) および Monitor Migration Progress(移行進行状況を監視) 画面にプロビジョニングタスクを追加: MNE の <i>Manage Scheduled Operations</i>(スケジュール設定された操作を管理) 画面(Notes Migration Manager)の <i>Operation type</i>(操作タイプ) のドロップダウンリストに、その画面の <i>Tasks</i>(タスク) テーブルに追加可能なプロビジョニングタスク(<i>Provision Users</i>(ユーザーのプロビジョニング) および <i>Provision Groups</i>(グループのプロビジョニング))が含まれるようになりました(<i>Tasks</i>(タスク) テーブルのタスクは、スケジュール設定、編集、または今すぐ実行することができます)。同じ <i>Provision Users</i>(ユーザーのプロビジョニング) および <i>Provision Groups</i>(グループのプロビジョニング) タスクが、<i>Monitor Migration Progress</i>(移行進行状況を監視) 画面の現在実行中および最近完了した MNE 動作のリストにも表示されます。</p>	464402

意図的にスキップした移行されていないアイテムをカウントする(またはカウントしない)プログラム統計データ用オプション: 移行されなかったアイテムのロギングおよび統計データに、意図的にスキップしたためスキップしたアイテムフォルダ *FailedMessageList* に表示されないアイテム(この機能は、以下の別の「機能強化」項目 ID #449021 で説明)を含めるか、または含めないよう、MNE の Data Migration Wizard(データ移行ウィザード) および SSDM を設定できるようになりました。

461458

たとえば、プログラムは PAB Replicator メッセージまたはカレンダーアイテムが移行用に選択されていない場合、これらのアイテムを意図的にスキップしますが、これらは故意に移行から除外されているため、スキップしたアイテムフォルダ *FailedMessageList* に表示されません。以前のリリースの MNE は、スキップしたアイテムの統計データでこれらアイテムをカウントし、ログでレポートしていましたが、この新しい機能では統計データおよびプログラムログから除外するかどうかを選択できます。

このオプションは、タスクパラメータおよびグローバルデフォルト値の [Notes] セクションに追加された新規グローバルプログラムパラメータにより、有効 / 無効にすることができます。

[Notes]

CountIntentionallySkippedItems=<#>

デフォルトでは(1)、スキップされたアイテムがログおよび統計データのカウントに(以前のリリースと同様)含まれますが、スキップしたアイテムフォルダ(ビュー)には表示されません。そのようなアイテムのロギングとカウントを無効にするには、*CountIntentionallySkippedItems=0* を設定します。注:

- *FailedMessageList* 機能が無効の場合は、この新しい *CountIntentionallySkippedItems* パラメータの設定がすべて無視されます。
- *CountIntentionallySkippedItems=0* 設定は [General] *LogSkippedAppointmentResponses=1* を上書きします(プログラムはスキップされた予定の応答をログまたはカウントしません)。

SSDM の Error Log Report(エラーログレポート) ボタンを表示または非表示にする管理オプション: 管理者が、最後の SSDM エンドユーザー画面で **Error Log Report(エラーログレポート) ボタン**を非表示にするオプションが MNE に用意されました。このボタンは、*notesdtapp.ini* 設定ファイル内で新しいグローバルパラメータによって有効 / 無効にします。

461408

[General]

ShowSSDMErrLogButton=<#>

このボタンは、デフォルトで有効(*ShowSSDMErrLogButton=1*)になっています。大きなログファイルにアクセスするとユーザーデスクトップがハングするような環境では、このボタンを無効にすると便利です。

Exchange 2016 のサポート: MNE が移行先として Exchange 2016 をサポートするようになりました。

449644

PowerShell によるワークステーション固有の移行: MNE の *Invoke-MNEMigrateUserData* コマンドレットで、特定のワークステーションで移行の実行を指定するオプションパラメータがサポートされるようになりました。

449374

-Workstation [<Workstation>]

デフォルトは *[null]* で、コマンドレットを入力したワークステーションから移行が実行されます。コマンドレット全体の構文は、本リリースに付属する最新の「管理ガイド」の第 16 章に記載され、次のいずれかになります。

```
Invoke-MigrateUserData [-UserCollectionId] <string> [-MaxMigrationThreads [<int>]]
[-ConfigurationId [<Guid>]] [-LogFile [<string>]] [-Workstation [<Workstation>]]
[-CommonParameters]
```

```
Invoke-MigrateUserData [-UserCollectionId] <string> [-MaxMigrationThreads [<int>]]
[-ConfigurationFilename [<Guid>]] [-LogFile [<string>]] [-Workstation [<Workstation>]]
[-CommonParameters]
```

Data Migration Wizard(データ移行ウィザード)での移行されなかったアイテムの追跡: 各移行ユーザーの Notes メールボックスに、移行先に移行されなかったアイテムへのリンクが格納されたフォルダを生成するよう、Data Migration Wizard(データ移行ウィザード)を設定できるようになりました。この機能は、最初は 4.12.1 RTM バージョンで SSDM に導入され、Data Migration Wizard(データ移行ウィザード)にも追加されました。

移行されなかったアイテム(メッセージとカレンダーの両方のアイテム)は、ユーザーの Notes メールボックス内の新しいフォルダにある DocLink として参照されます。この機能は、MNE タスクパラメータおよびグローバルデフォルト値の [Notes] セクションに追加された 2 つの新しいプログラムパラメータにより、有効 / 無効にすることができます。

```
[Notes]
WriteFailedMessageListToThisMbxFolder=<string>
WriteFailedMessageListClass=<keyword(s)>
```

WriteFailedMessageListToThisMbxFolder パラメータは、ユーザーのメールボックスに追加し、移行されなかったアイテムを格納するフォルダの名前を指定します。*WriteFailedMessageListClass* は、この機能で取得する移行されなかったアイテムの 1 つ以上のタイプを指定します。有効なキーワード値は *Errored*、*Skipped*、および *Filtered* です。複数のタイプを指定するには、この例のように複数のキーワードをパイプ(「|」)文字で区切ります。

```
WriteFailedMessageListToThisMbxFolder=FailedMessages
WriteFailedMessageListClass=Errored|Skipped|Filtered
```

この例では、ウィザードがすべての *Errored*、*Skipped*、および / または *Filtered* アイテムのコピーを作成し、それをユーザーの Notes メールボックスの *FailedMessages* という名前の新しいフォルダに保存します。

この機能は、*WriteFailedMessageListToThisMbxFolder* パラメータに何らかの値を入力すると有効になります(パラメータを省略するか、値が空だった場合、この機能は無効になり、*WriteFailedMessageListClass* が無視されます)。この機能はデフォルトで無効となり(*WriteFailedMessageListToThisMbxFolder* が省略されるか、値が [null] の場合)、デフォルトで *WriteFailedMessageListClass=Errored* (のみ)となります。

SSDM での移行されなかったカレンダーアイテムの追跡: 移行先に移行されなかったメッセージを追跡する SSDM の機能は、最初は MNE の 4.12.1 RTM バージョンで導入され(RTM の『[リリースノート](#)』の「[機能強化](#)」項目 ID 438068 を参照)、カレンダーアイテムも含まれるようになりました。

Admin Account Pool のアカウントライセンス付与 / 解除: MNE の Admin Account Pooling ユーティリティに、Admin Pool 内のアカウントにライセンスを許可または解除するオプションが含まれました。以前は、これらのアカウントが常にライセンス解除されていましたが、2015 年 3 月以降は Admin Pool アカウントで Office 365 に接続する際に、一部顧客で接続エラーが発生するようになりました。これらの顧客から、Admin Pool ユーザーにライセンス付与すると接続エラーが解消されるとの報告があったため、このオプションではそのようなユーザーに自動的に(必要に応じて)ライセンスを付与し、移行の完了後にライセンスを解除できます。

Microsoft Office 365 ライセンスは移転可能なため、Admin Account Pooling アカウントから関連付け解除後にそれらを再割り当てできます。この関連付け解除によって、そのアカウント用に作成された Office 365 メールボックスもすべて削除されますが、この目的で作成された管理アカウントは一般的に Office 365 メールボックスが不要または使用しません。

このライセンス付与 / 解除機能の説明は、このリリースに付属する最新の『[管理ガイド](#)』の第 15 章に記載されています。

スキップした予定の応答をログまたは(統計データで)カウントしないオプション: Data Migration Wizard (データ移行ウィザード) で、移行されなかったアイテムのログエントリまたは統計データカウントに、[Notes] `MigrateAppointmentResponses=0` 設定で意図的にスキップした予定の応答を含めるかどうか選択できるようになりました。このオプションは、タスクパラメータおよびグローバルデフォルト値の [General] セクションに追加された新規ブールプログラムパラメータにより、有効 / 無効にすることができます。

[General]

`LogSkippedAppointmentResponses=<#>`

デフォルト(1)では、`MigrateAppointmentResponses=0` によってスキップされた予定の応答が、ログおよびカウントに含まれます。そのようなアイテムのロギングとカウントを無効にするには、`LogSkippedAppointmentResponses=0` を設定します。

暗号化されたアイテム用に強化された統計データ: MNE の TSV サマリレポートに、暗号化されたアイテムの移行に関する統計データが含まれるようになりました。Data Migration Wizard (データ移行ウィザード) の実行完了後、コレクションレポートごとのユーザー移行統計データに次の列とデータが含まれます。

Skipped Encrypted Appointment Count (スキップした暗号化予定数)

Skipped Appointment Count (スキップした予定数)

Moved Encrypted Message Count (移動した暗号化メッセージ数)

Moved Encrypted Message Size (移動した暗号化メッセージサイズ)

Filtered Encrypted Message Count (フィルタ処理した暗号化メッセージ数)

Moved Encrypted Appointment Count (移動した暗号化予定数)

Filtered Encrypted Appointment Count (フィルタ処理した暗号化予定数)

また、*User migration status per collection* (コレクションごとのユーザー移行統計データ) 画面 (MNE の *View Summaries* (サマリを表示)) に以下が含まれるようになりました。

Migrated Encrypted Calendar Count (移行した暗号化カレンダー数)

Migrated Encrypted Calendar Size Bytes (移行した暗号化カレンダーサイズ(バイト))

Remigrated Encrypted Calendar Count (再移行した暗号化カレンダー数)

Remigrated Encrypted Calendar Size Bytes (再移行した暗号化カレンダーサイズ(バイト))

Filtered Encrypted Calendar Count (フィルタ処理した暗号化カレンダー数)

Skipped Encrypted Calendar Count (スキップした暗号化カレンダー数)

Total Encrypted Calendar Count (合計暗号化カレンダー数)

暗号化されたアイテム用に強化されたロギング: Data Migration Wizard (データ移行ウィザード) のログファイルに、暗号化されたメールアイテムと暗号化されていないものの数が個別に含まれるようになりました。

機能強化

問題 ID

<p>暗号化されたメッセージを個別の PST に移行する SSDM 機能の拡張:最初は 4.12.1 RTM リリースで導入されたこの機能で、移行先 PST ファイル名を詳細に設定できるようになり、当初の動作に対する顧客フィードバックを反映して一部改訂されました。パラメータ名が変更され(現在は <i>EncryptedPstFileName</i>、以前は <i>EncryptedPstFileSuffix</i>)、移行用に <i>source.nsf</i> ファイルがいくつ選択されているかに関係なく、すべての移行元からの暗号化出力を指定されたファイル名に送ります。</p> <p>新しい <i>notesdtapp.ini</i> パラメータで、暗号化メッセージの移行先ファイルとなるファイル名全体(.pst 拡張子を含む)を指定します。</p> <pre>[General] EncryptedPstFileName=<filename.pst></pre> <p>その後 SSDM を実行すると、プログラムはそれまでの PST ファイルを保存し、指定されたファイル名に自動的に数字を追加して、以前に移行済みの PST と区別します (<i>filename.pst</i>、<i>filename_1.pst</i>、<i>filename_2.pst</i> など)。</p> <p>デフォルトは [null] で実質的に機能が無効となるため、暗号化メッセージは他のすべての移行されたアイテムと同じ PST ファイルに送られます。</p> <p>この機能を有効にできるのは、以下によってすべての移行されたアイテムが PST に送られる場合のみです。</p> <pre>[General] ServerMailDest=PST ArchiveDest=PST PABDest=PST</pre> <p>PST 以外の移行先に送られるアイテムタイプが存在する場合、SSDM は <i>EncryptedPstFileName</i> パラメータを無視します。</p>	443644 430793
---	------------------

<p>オプションタスクの依存関係:Data Migration Wizard(データ移行ウィザード)で、以前に定義された MNE タスクの実行後にのみ、タスクを実行するかどうかを指定できるようになりました。この機能では、複数の不定期ジョブの特定の順序を定義し、使用可能な移行タイミングを増やすことができます。この機能はウィザードの <i>Specify Task Schedule</i>(タスクスケジュールの指定)画面にある、新しいチェックボックスとドロップダウンリストで設定します。</p> <pre>[_] Start this task only after completing(次の完了後のみこのタスクを開始する): [_____]</pre> <p>ドロップダウンリストには以前定義したすべての MNE タスクが表示され、新しいタスクの前に実行する必要があるタスクを選択できます。このような依存関係を持たないタスクを定義するには、このチェックボックスを選択解除しておきます。</p> <p>ジョブスケジュール設定の強化:複数の不定期ジョブの順序をスケジュール設定できるようになり、それらを順に実行し、使用可能な移行タイミングを増やすことができます。依存関係ジョブは、その前のすべてのジョブが正常に完了するとすぐに起動されます。</p> <p>テンプレート管理:保存済みのテンプレートが不要になった場合、それを削除できるようになりました。</p>	429548 424630 424629 414989 414155
--	--

解決済みの問題

解決済みの問題	問題 ID
プールにアドレスフォーマットが不適切なユーザーが含まれていても、Admin Account Pool をサイズ変更できるようになりました。	597529
ヘブライ語文字が含まれたメッセージの処理が改善されました。	592553 595375
予約データベースで直接作成された会議のサポートが強化されました。	595369
連絡先をマージする際の、欠落したユーザーオブジェクトの処理が改善されました。	587052
スケジュールが有効で、ユーザー名に特殊文字が含まれているシナリオを、SSDM がうまく処理できるようになりました。	520649

解決済みの問題	問題 ID
メールボックスのファイル名に含まれる ASCII 以外の文字の、SSDM による認識と処理が改善されました。	508932
メッセージ本文で数字の直前にある Unicode の英語以外の文字をうまく処理できるようになりました。	508749
.Net Framework バージョン 4.0 がインストールされていないコンピュータで SSDM を終了する際の堅牢性が高まりました。SSDM が必要とするのは .Net Framework バージョン 2.0 のみです。	504177
移行されたデータの忠実性が高まり、最初は Outlook で作成された会議が、Exchange メールボックスがデルの CMN によってプロビジョニングされた際にの変更されてうまく対応できるようになりました。このリリース前に移行された会議に関するこのような問題は、このリリースをインストールして再移行すると解決できます。	502498
Data Migration Wizard(データ移行ウィザード) で、Office 365 とのディレクトリ同期のため Prepare local AD accounts (ローカル AD アカウントの準備) が設定されている場合、すべての AD メール有効ユーザーの <i>targetAddress</i> の前に「SMTP:」が必ず付加されるようになりました。	502523
MNE の Data Migration Wizard(データ移行ウィザード) および SSDM を使用する際の、ドラフト繰り返し会議の移行が改善されました。	502259
Provisioning Wizard(プロビジョニングウィザード) で、セキュリティオブジェクトを持つ既存の連絡先を移行する(メール有効オブジェクトを作成する)際に、対象 Active Directory オブジェクトに <i>targetAddress</i> 属性を割り当てるようになりました。	497897
特定のドメインコントローラをプロセスに指定する際の、Provisioning Wizard(プロビジョニングウィザード) の機能が改善されました。	497131
移行前に、招待者が Notes の 1 つ以上のインスタンスを拒否した場合に、繰り返しカレンダー会議がうまく処理されるようになりました。	491979
必要条件チェッカーが、移行先として Office 365 を選択した場合に、Windows Server 2012 R2 がサポートされていないとレポートしなくなりました。	490009 442379
[Notes] <i>UseLegacyMeetingParentHeuristic=0</i> が設定されている場合、一連の繰り返しカレンダー内のキャンセルされた会議が移行されなくなりました。	471267
MNE 移行ログ(およびデータベース)が、4.12.1.13 で追加された新しい統計データに完全対応しました。	468147
Notes RTF のレジリエントな抽出で、IBM から提供される複数の API が利用されます。	467259
Notes のメッセージ添付ファイルに関連するイメージは、Outlook で別のメッセージ添付ファイルとして表示されることがあるため、MNE の Data Migration Wizard(データ移行ウィザード) および SSDM で移行されなくなりました。	467115
<i>Timezone</i> (タイムゾーン) が UTC+1 以上に設定されている場合に、連絡先の <i>Birthday</i> (誕生日) フィールド値が移行時にうまく処理されるようになりました。	463030
大幅にカスタマイズされた Notes 会議テンプレートからタイムゾーンを越えて移行する際に、会議の日時の解釈が改善されました。	459432
大幅にカスタマイズされた Notes の会議テンプレートから生成された繰り返し会議を正しく移行できます。	459431
存在しない <i>Location</i> (ロケーション) に関連付けられ、Outlook の招待者に送信された Notes の予定が、Outlook で <i>Location</i> (ロケーション) が未予約のままになります。	452895
Locate Data Stores(データストアを検索) を実行してアーカイブを検索後、Export TSV(TSV をエクスポート) にアーカイブパスではなく、メールファイルのパスが表示されるようになりました。	449567
SSDM と Exchange 2013 の RTF 同期パフォーマンスが改善されました。	445159
「User Collections(ユーザーコレクション) > manage(管理)」および「Directory export(ディレクトリのエクスポート)」パネルからのコレクションのエクスポートパフォーマンスが向上しました。	444141
Notes から Exchange に移行されたイメージのデータサイズが最適化されました。	443373
電子メールアドレスのない iNotes 連絡先を移行しても、新しい電子メールの作成時に Outlook のドロップダウンリストに有効な(選択可能な)受信者として表示されないようになりました。	440570

解決済みの問題	問題 ID
Notes のカレンダーデータを Exchange に移行する際に、標準の予定フォーマットがうまく処理されるようになりました。	436606
一定の条件下で SSDM のログに記録されることのある、「COM RRRuleGuesser を作成できません:クラスが登録されていません」というエラーが解消されました。	428623
カスタム生成された ICS ファイルから、Note-Type=' ' で Notes のカレンダーにインポートされたカレンダー会議の移行が改善されました。	340129
ワークフロー有効で割り当てられた To Do オブジェクトが正しく移行されるようになりました。	187627

既知の問題

移行プロセスで発生するほとんどの既知の問題および制限は、ソース環境とターゲット環境での機能の不整合によるものです。つまり、Notes 環境で使用できる機能は、ターゲット環境でも同じ機能や互換性のある機能が提供されていなければ移行できません。その他の制限は、機能の非互換性によるものです。ソース環境とターゲット環境で同じ機能が提供されていても、実装方法が大きく異なる場合は、実際には移行できないことがあります。どの場合でも、ほとんどの管理者は、このような制限を移行プロジェクト全体の中では些細なこと、または偶発的なこととみなします。

Quest では、一時的かつ今後のリリースで解決されると予想される(ここに記載された)既知の「問題」と、プロセスや環境アーキテクチャに固有のものと考えられ、したがって解決は望めないと予想される既知の「制限」とを区別しています。MNE『移行前プランニング ガイド』の「付録 A」に、Migrator for Notes to Exchange の現行バージョンで改善されたこれらの移行プロセスの既知の問題がすべて記載されています。

他社製品に起因するものも含め、このリリースの時点で存在する既知の問題の一覧を次に示します。

一般的な既知の問題

既知の問題	問題 ID
一連の会議の繰り返しパターンが Notes ではサポートされているが Outlook ではサポートされていない場合に、主催者または出席予定者のどちらか(両方ではない)が移行されると、個々の会議の一部の更新/キャンセル/応答は動作しません。	227308
Exchange への移行前に実行されていない会議の代案は、Exchange への移行後に実行できません。	227303
Data Migration Wizard が Office 365 ユーザーからの転送を削除し、ローカルの Active Directory が存在しない場合、ウィザードは実行を正常に完了しますが、3 つのエラーが発生します。うち 2 つは、Active Directory でユーザーの検出に失敗した、というエラーです。	100088
Quest Report Pack for Lotus Notes Migration バージョン 2 のインストーラは、バージョン 1 のインストーラとは異なり、MNE データベースのテーブルに対して MessageStats Report サーバーの URL を設定しません。	100083
Domino 名が Exchange の最大名前長を超えている場合、MNE によって Notes ユーザーの名前が切り詰められます。ただし、その後 Directory Export Wizard を実行すると、切り詰められた名前が Notes の元の名前と同じものとして認識されないため、重複したオブジェクトレコードが生成されてしまいます。	100071
ドラフトのカレンダー アイテムは Exchange に移行されますが、移行後は一部の機能が動作しません。	100000
移行前に、会議の委任と、委任されたユーザーが承諾または辞退を行った場合、繰り返しタイプの会議を移行すると、会議主催者により会議の招待を委任された Notes ユーザーの会議承諾/辞退状況が正しく表示されない場合があります。	242781
個人用アドレス帳を移行する場合、MNE の Data Migration Wizard は、Notes に登録されている連絡先の携帯電話番号を、対応する Exchange レコードの [Pager] (ポケットベル) フィールドに移行してしまいます。	88418
iNotes 連絡先のみを移行する場合、[Notes Mail Files] (Notes のメール ファイル) 画面が表示されないため、管理者がサーバー経由またはファイル システム経由のどちらで移行するかを選択できません。最後の移行で選択したのがファイルシステムの場合は、Task Parameters か INI ファイルに移動して変更しない限り、ファイルシステム経由でプログラムが実行されます。	57447

Exchange が原因で、他のアプリケーション (Notes Migrator for Exchange を含む) で、リソースのメールボックスに移行されたアイテムの「所有者」プロパティを設定できません。

57381

Exchange 2013 または 2010 に移行する場合: 1 つのフォレストで複数のドメインで構成された Exchange 2013 または 2010 環境への移行で、連絡先をマージするか、メールボックス有効にする場合、グローバル カタログとドメイン コントローラの設定 (Notes Migration Manager の [Active Directory Configuration] (Active Directory の構成) 画面上) を、移行またはメールボックス有効にする Active Directory ユーザー オブジェクトを含むドメイン内のサーバーに設定する必要があります。

75388

Directory Export Wizard の既知の問題

既知の問題	問題 ID
Microsoft Transporter を使用して、Notes と Exchange を並行運用し、Notes から Exchange へのメール転送の設定を行っている場合、続けて実行される Directory Export Wizard により次のエラーが生成されます (ユーザーごとに 1 エラー)。 ERROR: [2448-147-22-00000000] Unable to import SMTP Address '[address]' このエラーは、メールの転送の際に、Notes のユーザー文書で 2 つの @ 記号が付いた修正済みのアドレス形式が要求されるために発生します。Data Migration Wizard では、メール転送の設定時にアドレスが設定されるので、Directory Export Wizard は無効な SMTP アドレスとして正しくフラグを立てることができません。このようなエラーは、メール転送が設定された後は無関係となるため、無視しても問題ありません。	56474

SSDM の既知の問題

既知の問題	問題 ID
SSDM が、アクセスコントロールリスト内の一部のユーザーにフォルダ権限を正しく適用しません。メールボックス所有者のフォルダ権限は正しく適用されます。	605375
Domino/Notes 9.0.1 から移行する場合、3 か月分の各月の最終週の金曜日にスケジュールされている会議と予定が SSDM で Exchange に移行されません。	353408
Domino/Notes 9.0.1 から移行する場合、1 か月に複数回繰り返される会議は、SSDM 経由では Exchange に移行されません。	353407

BES Migration の既知の問題

既知の問題	問題 ID
[Specify How to Notify BlackBerry Users] (BlackBerry ユーザーの移行方法の指定) 画面の [Template file] (テンプレート ファイル) フィールド (Data Migration Wizard) では、このウィザードが使用するテンプレート ファイルを指定できる [Browse] (参照) 機能が提供されています。MNE (バージョン 4.10 以上) にアップグレードすると、[Browse] (参照) 機能はデフォルトで、新しい Quest フォルダではなく、ファイルのアップグレード前の場所 (Quest フォルダ) を参照しているため、新しい Quest フォルダにファイルを手動で移行する必要があります。以前の Quest フォルダからファイルを選択すると、移行できません。この影響についての説明が MNE の『管理ガイド』の [Specify How to Notify BlackBerry Users] (BlackBerry ユーザーの移行方法の指定) 画面の注に追加されています。	375843

オフライン移行の既知の問題

既知の問題	問題 ID
オフラインでの移行の場合は、Data Migration Wizard の Task Parameters にある [General] セクションの HTMLdoclinks プログラム パラメータを 0 (ゼロ) に設定する必要があります。HTMLdoclinks=0 に設定すると、ウィザードで Notes DocLinks が Notes スタイルの DocLinks として移行されます。DocLinks は、Notes クライアントがクライアント ワークステーションにインストールされている場合にのみ、Exchange で開くことができます。デフォルト (HTMLdoclinks=1) では、Notes DocLinks は HTML スタイルのリンクとして Exchange に移行され、ユーザーが iNotes を使用できる場合は、Web ブラウザで開くことができます。ただし、このデフォルト設定を使用すると、オフライン移行ではエラーが発生します。	30886

Outlook の既知の問題

既知の問題	問題 ID
自動アーカイブに設定した保存期間が過ぎるまで、Outlook のアーカイブは、移行対象のメッセージには適用されません。Outlook は、最終更新日時に基づいてメッセージの保存期間を決定しますが、移行時に最終更新日時が移行の日時に書き換えられてしまうためです。メッセージは移行されると、その移行日が更新日になりますが、Outlook では Data Migration Wizard でプロパティを移行前の本来の日時にリセットできません。Outlook のアーカイブ機能では、メッセージが移行されてから保存期間(通常は 30 日)が経過してメッセージが「更新日の再計算」されるまでメッセージはスキップされ、保存期間が経過した時点ですべての移行されたメッセージが保存されます。	58004

システム要件

- 重要:** ここに示す要件リストには、Migrator for Notes to Exchange のための基本ハードウェアおよびソフトウェア要件が記載されています。MNE には特定の設定上の考慮事項およびアカウント権限も必要です。これらの追加要件の詳細については、MNE の『移行前プランニングガイド』の第 1 章「*Configuration requirements and account permissions*」(設定要件およびアカウント権限)を参照してください。

MNE をインストールする前に、環境がこの最小ハードウェアおよびソフトウェア要件に適合している(適合する予定である)ことを確認してください。

Lotus Domino サーバー

サポートされる Domino ソース環境(すべての範囲が含まれる):

Notes/Domino 9.0.0 および 9.0.1	Notes/Domino 7.0.0~7.0.4
Notes/Domino 8.5.0~8.5.3 および 8.0.0~8.0.2	Notes/Domino 6.x

Lotus Live のサポート: MNE は Lotus Notes クライアントバージョン 8.5.3 以降で、SSDM を使用した Lotus Live からの移行を部分的にサポートしています。この機能のためには、MNE の『移行前プランニングガイド』の第 1 章「*Configuration requirements and account permissions*」(設定要件およびアカウント権限)に説明のあるとおり、ローカルの Notes クライアントを Lotus Live 用に設定する必要もあります。

Microsoft Exchange サーバー

サポートされる Exchange ターゲット環境:

Exchange 2016: RTM	Exchange 2010: RTM、SP1、SP2、および SP3
Exchange 2013: RTM および SP1	Microsoft Office 365: テナント E1、E2、E3、または E4

SQL サーバー

Microsoft SQL Server MNE が Microsoft SQL Server にアクセスできる必要があります。無料の Express Edition に加えて、次のバージョンがサポートされています。

- SQL Server 2008
- SQL Server 2008 Express Edition
- SQL Server 2008 R2
- SQL Server 2012
- SQL Server 2012 Express Edition
- SQL Server 2014
- SQL Server 2014 Express Edition

注:

- 管理者の移行サーバーまたは別のサーバーのいずれかに SQL がインストールされている必要があります。また、最低 20GB の空きディスク容量が必要です。
- Microsoft SQL Server がすでにインストールされている場合は、それを使用することができます。また、MNE AutoRun インストーラに用意されているリンクを使用して Microsoft から無料コピーをダウンロードし、インストールすることもできます。
- MNE の Directory Export Wizard (ディレクトリのエクスポートウィザード) が最高のパフォーマンスを発揮するためには、特に多数のグループまたはドメインのあるサイトでは、全機能 (Express ではない) エディションの SQL Server を推奨します。

MNE 移行管理用サーバー

サポートされているオペレーティング システム (移行先)...		Exchange 2016/2013/2010	Office 365
Windows Server 2012 または 2012 R2	64 ビット	•	•
Windows 8	32 ビット	•	•
	64 ビット	•	•
Windows Server 2008 SP2	32 ビット	•	•
	64 ビット	•	•
Windows Server 2008 R2	64 ビット	•	•
Windows 7	32 ビット	•	•
	64 ビット	•	•

Exchange BlackBerry の移行の要件は次に別途記載。

- ワークステーションのハードウェア
- Exchange サーバーとは別のマシンが必要ですが、AD および Exchange と同じドメインのメンバーにします。
 - 仮想マシンでも使用できますが、「物理的な」専用マシンを用意の方が、移行パフォーマンスの向上が望めます。
 - ハードウェアの最小要件:
 - 2GHz 以上のデュアル コア プロセッサ、4GB のメモリ、および 20GB のディスク空き容量。
 - パフォーマンス向上のための推奨事項 (特に、大容量データを移行する場合):
 - 2GHz のクワッドコア プロセッサ、8GB のメモリ。
 - すべての移行サーバー、Exchange、および Domino サーバーで、1Gbps の NIC および 1 Gbps より高速なネットワーク接続。

すべての Exchange
ターゲット タイプに
適用される要件
(Office 365 を含む)

- Windows Installer 4.5([この Microsoft リンク](#)からダウンロード可能)。
- .Net Framework 4.0。
- Microsoft SQL 2012 Native Client。
- Microsoft SQL Server 2012 コマンドラインユーティリティ(MNE Autorun に用意されているリンクから無料ダウンロード)。
- Windows Management Framework 3.0 に含まれる Windows PowerShell 3.0(SP1 よりも前の Windows Server 2008 R2 および Windows 7 を除く、MNE でサポートされるすべての OS に付属)。PowerShell 3.0 が OS に付属していない場合は、「[この Microsoft リンク](#)」から Windows Management Framework 3.0 をダウンロードできます。
- Lotus Notes がシングルユーザー モードでインストールおよび設定されている必要があります。Notes クライアントのバージョンは、9.0.0 ~ 9.0.1、8.5.0 ~ 8.5.3 または 8.0.0 ~ 8.0.2 または 6.0.0 ~ 7.0.4 である必要があります。また、Domino サーバのバージョンと適合するか、それ以上となっている必要があります。
- デフォルトのメールクライアントは 32 ビットエディション(のみ)の Outlook 2013 または 2010 にする必要があります。Exchange 2016 または Exchange 2013 あるいは Office 365 へ移行する場合、Outlook クライアントは Microsoft の [Exchange 2016](#) または [Exchange 2013](#) あるいは [Office 365](#) に関する要件をそれぞれ満たす必要があります。**Quest では、Outlook 2013 を Office 365 に移行することをお勧めしません。**
- 移行の実行に必要な MAPI DLL は、ダウンロード可能な Exchange「サーバー」MAPI **ではなく**、Outlook に含まれる MAPI DLL である必要があります。

移行先の
Office 365 にも必要必要
な要件

- Microsoft の MSOL サインインアシスタント x64 エディション(「[この Microsoft リンク](#)」で入手可能)。
- Microsoft の Windows PowerShell 用 Azure AD モジュール x64 エディション(「[この Microsoft リンク](#)」から入手可能)。
- (上記の .Net Framework 4.0 に加え) .Net Framework 3.5 SP1。

エンドユーザーデスクトップ(SSDM を実行する場合)

SSDM エンドユーザーワークステーションには仮想マシンも使用できませんが、物理的な専用マシンを用意する方が移行パフォーマンスの向上が望めます。

サポートされる
オペレーティング
システム

Windows 10、Windows 8.1、Windows 8 または Windows 7: 32 ビットまたは 64 ビット エディション。
Windows Server 2012: 32 ビットまたは 64 ビット エディション。
Windows Vista (Business、Enterprise、または Ultimate): 32 ビットまたは 64 ビット エディション。
Windows 2003: 32 または 64 ビット エディション。
Windows XP SP2 または SP3 Professional: 32 ビット エディション(のみ)。

必要な
Outlook クライアント

Outlook 2016、2013、2010、または 2007 の 32 ビットまたは 64 ビット エディション(のみ)。
Quest では、Outlook 2013 を Office 365 に移行することをお勧めしません。
Exchange 2016 または Exchange 2013 あるいは Office 365 へ移行する場合、Outlook クライアントは Microsoft の [Exchange 2016](#) または [Exchange 2013](#) あるいは [Office 365](#) に関する要件をそれぞれ満たす必要があります。

各エンド ユーザーの SSDM デスクトップ	Microsoft .Net Framework バージョン 2.0 がインストールされている必要があります。 エンドユーザーが(各ユーザーのローカル コピーからではなく)ネットワーク共有から SSDM アプリケーションを実行する場合:各ワークステーションには .Net 3.5 SP1(以降)がインストールされているか、ネットワーク共有内の SSDM に完全な信頼を付与する Code Access Security(CAS)ポリシーが必要です(必要な CAS ポリシーを設定する手順については、MNE の『シナリオ ガイド』の第 4 章「SSDM を実行する前に」を参照してください)。 移行の実行に必要な MAPI DLL は、ダウンロード可能な Exchange「サーバー」MAPI ではなく、Outlook に含まれる MAPI DLL である必要があります 。				
必要な Lotus Notes クライアント	Unicode のサポートには、次のいずれかのバージョンの Lotus Notes クライアントが必要です。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">9.0.0 または 9.0.1</td> <td style="text-align: center;">8.0.0 ~ 8.0.2(含む)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">8.5.0 ~ 8.5.3(含む)</td> <td style="text-align: center;">6.0.0 ~ 7.0.4(含む)</td> </tr> </table>	9.0.0 または 9.0.1	8.0.0 ~ 8.0.2(含む)	8.5.0 ~ 8.5.3(含む)	6.0.0 ~ 7.0.4(含む)
9.0.0 または 9.0.1	8.0.0 ~ 8.0.2(含む)				
8.5.0 ~ 8.5.3(含む)	6.0.0 ~ 7.0.4(含む)				
Lotus Live のサポート	MNE は Lotus Notes クライアントバージョン 8.5.3 以降で、SSDM を使用した Lotus Live からの移行を部分的にサポートしています。この機能のためには、MNE の『移行前プランニングガイド』の第 1 章「 <i>Configuration requirements and account permissions</i> 」(設定要件およびアカウント権限)に説明のあるとおり、ローカルの Notes クライアントを Lotus Live 用に設定する必要もあります。				

Domino BlackBerry から Exchange BlackBerry への移行

サポートされるソース	Notes BlackBerry Enterprise Server 4.1.x または 5.0.x
サポートされるターゲット	Exchange BlackBerry Enterprise Server 10.x または 5.0.x。
MNE 管理サーバー	オペレーティング システム: Windows 7 SP1 または Win Server 2008 R2。 Windows Powershell 3.0、および Windows Management Framework 3.0。 BlackBerry Enterprise Server Resource Kit、BlackBerry サーバーと互換性のあるバージョン。BES 10 には、BES Resource Kit バージョン 6.x が必要です。Domino および Exchange BlackBerry Enterprise Server のバージョンが異なる場合、両方が移行サーバーにインストールされている必要があります。
BlackBerry 移行のための Migration Webservice エンドポイント	オペレーティング システム: Windows 7 SP1 または Win Server 2008 R2。 Microsoft IIS 7 以降と、Net 3.5 SP1 および .Net 4.0 が実行中の Web アプリケーション プール。

SSDM スケジューリング ユーティリティの Web サービスをホストしているサーバー

ASP.net バージョン 4.0 がインストールされている必要があります。SSDM Scheduling Web Service が実行されている場合、SSDM Scheduling Web Service によって使用されているアプリケーション プールの .NET Framework バージョンを .NET 4.0 に変更する必要があります。

アップグレードと互換性

新しいバージョンをインストールするために、以前のバージョンをアンインストールする必要はありません(ただし、後述のように、4.10 より前の BES Migration Website をアップグレードする場合は例外です)。アップグレード インストールおよびセットアップは完全に自動化されており、以前のバージョンによって移行済みのすべてのデータが保護されます。そのため、以前のバージョンで移行を中止したところから移行プロセスを再開できます。



重要: アップグレード プロセスにより、既存の *pabreplicator.nsf*、*attrs.tsv*、*wte.htm* および *ybm.htm* の各ファイルがファイル名に日付スタンプが追加されてバックアップされるため、元のファイルと同じ名前での新しいファイルが作成されます。



重要: MNE では、4.10 より前のバージョンから現行バージョンへの BES Migration Website の直接のアップグレードはサポートされていません。4.10 より前のバージョンの Quest BES Migration Website をアンインストールして、現行バージョンを最初から再インストールする必要があります。アンインストール手順は次のとおりです。

Quest BES Migration Website をアンインストールするには

残りの 4.10 より前のインストールは変更しないで、Quest BES Migration Website のみをアンインストールするには、次の手順で現行バージョンをインストールします。

- 1 PowerShell を開いて、次のコマンドレットを実行します。

```
Get-MigrationConfiguration -ServerName <BES Migration Website がインストールされているサーバーの名前> -id "Default settings"
```

-ServerName の一般的な値は、*localhost:4399* です。

このコマンドレットを実行すると、移行構成情報が返されます。この情報には、*ConfigurationGuid* も含まれています(*ConfigurationGuid* の内容をメモしてください)。

- 2 次のコマンドレットを実行します。

```
Export-MigrationConfiguration -ServerName localhost:4399 -id <ConfigurationGuid> -FileName <出力ファイルのパス>
```

- 3 出力ファイルのコピーを作成し、バックアップとして保管します。

- 4 元の出カファイルを開き、ファイルの一番下までスクロールします。次に、[BlackBerry] セクション全体を削除し、ファイルを保存します。

- 5 次のコマンドレットを実行します。

```
Import-MigrationConfiguration -ServerName <BES Migration Website がインストールされているサーバーの名前> -ConfigurationGuid <ConfigurationGuid> -FileName <出力ファイルのパス>
```

- 6 Windows の [コントロール パネル] で、[プログラムの追加と削除] を開き、Quest BES Migration Website のアンインストールを実行します。

- 7 *C:\Program Files\Quest Software* から Quest BES migration website フォルダを削除します。

- 8 インストーラを実行して、MNE を現行バージョンにアップグレードします。Quest BES Migration Website は、必ず、MNE と共にインストールしてください。

- 9 インストールが完了したら、Notes Migration Manager を起動して、[BlackBerry Servers](BlackBerry サーバー) 画面を開き、[Enable](有効) ボタンをクリックして、Quest BES Migration Website のインストールを実行します。

Website のインストールが完了すると、[BlackBerry Servers](BlackBerry サーバー) 画面のフィールドがすべて有効になります。

製品のライセンス

Migrator for Notes to Exchange は、有効なライセンス キーが付与されているアプリケーションを必要とする従量使用製品です。MNE ライセンス キーは、MNE の Notes Migration Manager コンポーネント内にインストールされます。

Quest Software Inc. では、移行するユーザー数に応じたライセンス キーを販売しています。この制限に達すると、ソフトウェアは移行済みのユーザーに対しては表面上は引き続き機能しているように見えますが、それ以降ユーザーは移行されません。特定のユーザーのすべての機能（プロビジョニング、転送、移行など）に同じライセンスが使用されます。プログラム機能が各ユーザーに初めて適用されると、ユーザー ライセンスの数がその分だけ増えていきます。つまり、任意の MNE コンポーネントの任意の機能を特定のユーザーに適用した場合、そのユーザーにすべてのコンポーネントのすべての機能を同じライセンスで適用できます。また、必要に応じて、オリジナルのライセンスを使用して、ユーザーを再移行することができます。再移行には、追加のライセンスは必要ありません。


評価版（トライアル版）ライセンスの目的は、ご使用の環境でお客様独自のデータを使用して MNE ソフトウェアを実際に使用し、MNE の機能がニーズに合っているかどうかをお客様が確認できるようにすることです。そのため、評価版/トライアル版ライセンスでは、「MIGRATION EVALUATION」（移行評価）というプログラム スタンプがすべての移行後のメッセージの [Subject]（件名）の前に付き、さらに、次の制限が適用されます。

- 2 週間以上先のカレンダー アイテムは、移行されない。
- 個人用アドレス帳の移行時に移行できるのは、個人用アドレス帳 1 つにつき 5 件の連絡先と 5 個のグループのみ。

ライセンス キーの取得または追加については、Quest Software セールスの担当者までお問い合わせください。評価版、永久版のいずれも、ライセンス キーは `NotesEX_4-###-#####.asc` というファイル名形式（###-##### は固有のライセンス番号）で、Quest Licensing から添付ファイルとして送信されます。ライセンス キー ファイルをデスクトップまたはその他の適切な場所にコピーします。

製品はライセンス キーがなくてもインストールできますが、ソフトウェアを初めて実行するときに、ライセンス キーを適用するように要求するメッセージが表示されます。Quest Software Inc. から提供されたライセンス キー ファイルを検索し、ライセンス キーを適用するように求められます。[Browse]（参照）機能を使用して、.asc ライセンス ファイルを検索し、指定します。

以前のバージョンからアップグレードする場合は、自動アップグレード プロセスによって既存のライセンス キーが新しいバージョンに転送されます。したがって、再インストールは不要です。

 **注:**ほとんどの環境では、Quest ライセンスを MNE にインストールする前に UAC (User Account Control: ユーザー アカウント制御) を無効にする必要があります。

MNE をお使いになる前に

- [アップグレードとインストールの手順](#)
- [その他の資料](#)

アップグレードとインストールの手順

Migrator for Notes to Exchange をインストールするには:

- 1 Quest.com Web サイトから Migrator for Notes to Exchange の zip フォルダをダウンロードし、すべてのファイルをインストール フォルダに抽出します。インストール フォルダから `Autorun.exe` を実行します。

（これを実行するのではなく、MNE 製品 CD を挿入してもかまいません。自動的に `Autorun` ユーティリティが実行されます）

`Autorun` ユーティリティが起動し、製品をインストールする前に**前提条件**やすべての MNE ドキュメントを含む製品情報を参照できます。

環境が、この『リリースノート』で上記した**システム要件**、および『移行前プランニングガイド』の第 1 章で規定した「*Configuration requirements and account permissions*」（設定要件およびアカウント権限）を満たしていること

を確認してください。必要なサードパーティ製コンポーネントのいくつかは、*Autorun* の [Prerequisites] (前提条件) タブにあるリンクから入手できる場合があります。

- 2 インストールの準備ができたなら、*Autorun* の [Install] (インストール) タブを選択します。
- 3 *Notes Migrator for Exchange* 製品名を選択してから、[Next] (次へ) を選択します。
- 4 ライセンス契約を読んで同意します。
- 5 MNE Installation Wizard の説明に従います。

i **注:** Microsoft の再配布可能コンポーネントが含まれている場合は、移行サーバー上でインストールできます。Migrator for Notes to Exchange を使用するには、移行環境に Microsoft SQL Server がインストールされている必要があります。

i **注:** Windows Server 2003 上にインストールしてから Microsoft の再配布可能コンポーネントの 1 つをインストールする場合、セットアップを終了するには InstallShield Wizard を閉じるようにダイアログボックスで指示され、プロセスが中断されることがあります。このメッセージが表示されても InstallShield Wizard を閉じる必要はありません。[無視] ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じて、セットアップを再開しても問題ありません。

i **注:** MNE では、SQL 2012 Native Client にアクセスする必要があります。移行サーバーに Microsoft SQL Server 2012 以降がインストールされている場合は、Native Client もインストールされています。Native Client がインストールされていない場合は、Installation Wizard で Quest MNE インストールの最後に、Microsoft SQL Server Native Client をインストールするオプションを選択してください。

- 6 MNE インストーラで表示される残りの手順と指示を実行します。

i **注:** MNE には、環境をスキャンし、MNE アプリケーションのシステム要件に適合しているかどうかを判断するウィザードが用意されています。MNE Prerequisites Checker により、必要なソフトウェアと設定、接続、権限、およびアクセス権が確認されます。MNE インストーラの終了ページからこのウィザードが自動的に起動されるようにするには、インストーラの [Finish] (完了) ボタンをクリックする前に、チェックボックスをオンにしておきます。

[] セットアップが終了したら、Prerequisites Checker を起動します。

この Checker は、Windows の [スタート] メニューの [Quest Migrator for Notes to Exchange] グループから個別に実行することもできます。Prerequisites Checker のログ ファイルは、%SystemDrive%\ProgramData\Quest\ に書き込まれます。

最後の画面の [Finish] (完了) をクリックして、インストールを完了します。MNE インストーラが終了すると、*Autorun* ユーティリティの [Install] (インストール) タブに戻ります。[Prerequisites Checker] チェックボックスをオンにすると、Prerequisites Checker のウィザードが (別ウィンドウで) すぐに実行されます。

- 7 必要に応じて、*Autorun* の他のタブを参照できます。
- 8 *Autorun* の他のタブを参照したら、(ウィンドウの右上隅にある [X]) **閉じる** ボタンをクリックして *Autorun* ユーティリティを閉じます。
- 9 任意選択の MNE タスク スケジュール機能を使用する場合は、MNE の『[管理ガイド](#)』の「付録 A」の「タスクのスケジュールを設定するには」セクションに記載の手順に従って、MNE Task Scheduler が構成されていることを確認します。

MNE コンポーネントを構成または実行する前に、上記の「[製品のライセンス](#)」を参照してください。

i **注:** **ロケール固有の設定:** また、英語以外の Lotus Notes 環境からの移行を行う場合は、特定の表示要素のために英語以外の適切な値で Data Migration Wizard と SSDM の両方を構成する必要があります。『[管理ガイド](#)』の「付録 A」の「MNE で英語以外の Notes ロケールを構成するには」を参照してください。

その他の資料

MNEに関する情報(すべての製品ドキュメントを含む)は、Quest Software のサポート ポータル <https://support.quest.com//ja-jp> からダウンロードできます。

MNE の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- **Quest MessageStats Report Pack for Lotus Notes Migration ユーザー ガイド**: Quest MessageStats Report Pack for Lotus Notes Migration の紹介、インストール、および操作に関する説明が記載されています。

MessageStats Report Pack for Lotus Notes Migration は単独の製品ですが、追加費用なしで MNE にバンドルされています。MessageStats は追加のインストール オプションとして MNE Autorun アプリケーションに表示されます。

Quest Windows Management and Migration オンライン コミュニティ

[Quest Windows Management and Migration Community](#) は、次のようなトピックについて情報を交換するための対話型のオンライン コミュニティです。

- 電子メール、ID、アプリケーションの Windows Exchange プラットフォーム(業務用および Office 365 のようなホストされた Exchange プラットフォームを含む)への移行。Exchange、GroupWise、Notes からの移行を含みます。
- Active Directory の移行。
- Notes アプリケーションおよび Exchange パブリック フォルダから Sharepoint への移行。
- 共存戦略とツール。

このコミュニティは Quest Migration の専門家とユーザーの協力関係を促進することを目的に作成されたものです。このコミュニティを通じて:

- 製品リリースやベータ版に関する情報を誰よりも早く入手できます。
- Quest の製品リーダーや、移行および共存のエキスパートにアドバイスをもらうことができます。
- ディスカッション フォーラムへの参加、洞察やアイデアの共有をはじめ、一般的な質問に回答してもらうことができます。

フォーラムやライブラリは自由に参照できますが、コミュニティの利点をフルに活用し、新しいスレッドを立て、他のユーザーからのメッセージに回答し、ドキュメントやダウンロードの評価を行うには、コミュニティに加入する必要があります。すでに Quest アカウントをお持ちの場合、または他の Quest コミュニティのメンバーである場合は、サインインするだけです。サインインおよび加入機能はどちらも、[Quest Windows Management and Migration Community](#) のページの右上にあるリンクから利用することができます。

グローバル化

ここでは、北米以外の地域のお客様に必要な、この製品を英語以外の言語構成でインストールして構成する方法を説明します。ここでの説明は、製品ドキュメントの別の箇所に記載されているサポートされているプラットフォームと構成についての説明に代わるものではありません。

このリリースでは、Unicode が利用可能で、すべての文字セットがサポートされています。すべての製品コンポーネントが同じまたは互換性のある文字エンコーディングを使用するよう構成する必要があり、同じロケールおよび地域オプションを使用してすべての製品コンポーネントをインストールする必要があります。このリリースを利用できる対象地域は、北米、西ヨーロッパ、ラテンアメリカ、中央ヨーロッパ、東ヨーロッパ、極東アジア、日本です。このリリースでは、コンプレックス スクリプト(中央アジア:インド、タイ)をサポートしています。

本リリースのリリース ノートは、日本語向けにローカライズされています。

Quest について

Quest はお客様の声を大切に、常に製品やサービスの向上に努めております。詳細については、<http://quest.com/jp-ja/> を参照してください。

Quest へのお問い合わせ

販売またはその他のお問い合わせは、「<https://www.quest.com/company/contact-us.aspx>」を参照するか、1-949-754-8000 までお電話ください。

著作権、免責事項、および商標

© 2016 Quest Software Inc.
ALL RIGHTS RESERVED.

本書には、著作権によって保護されている機密情報が記載されています。本書に記載されているソフトウェアは、ソフトウェア ライセンスまたは機密保持契約に基づいて提供されます。本ソフトウェアは、当該契約の条項に準拠している場合に限りに、使用または複製することができます。本書のいかなる部分も Quest 書面による許可なしに、購入者の個人的な使用以外の目的で、複製や記録などの電子的または機械的ないかなる形式や手段によっても複製または転送することはできません。

本書には、Quest 製品に関連する情報が記載されています。明示的、黙示的、または禁反言などを問わず、本書または Quest 製品の販売に関連して、いかなる知的所有権のライセンスも付与されません。本製品の使用許諾契約の契約条件に規定されている場合を除き、Quest はいかなる責任も負わず、製品に関連する明示的、黙示的または法律上の保証 (商品性、特定の目的に対する適合性、権利を侵害しないことに関する黙示的保証を含む) を否認します。Quest は、損害が生じる可能性について報告を受けたとしても、本書の使用、または不使用から生じるいかなる、直接的、間接的、必然的、懲罰的、特有または偶発的な障害 (無期限、利益の損失、事業中断、情報の紛失も含む) に対しても責任を負わないものとします。Quest は、本文書の内容に関して正確性または完全性についていかなる表明も保証も行わず、通知することなくいつでも仕様および製品記述の変更を行う権利を留保します。Quest は、本書の情報を更新する一切の義務を負いません。

本文書の使用に関してご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

Quest Software Inc.
デル株式会社 〒212-8589
川崎市幸区堀川町 580 番地
ソリッドスクエア東館 20F

日本国内および海外の事業所の情報に関しては、弊社の Web サイト(quest.com)を参照してください。

商標

Quest および Quest のロゴは、Quest Software Inc. およびその関連会社の商標です。商標や商品名を有する事業体、またはそれらの商品を表すために、他の商標および商品名が本書で使用されている場合があります。Quest は、第三者の商標や商号の独占的所有権を一切否認します。

Microsoft、Windows、Outlook、および Active Directory は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の登録商標です。Office 365 は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標です。IBM、Lotus、Lotus Notes、および Domino は、世界各地の管轄区で登録されている International Business Machines Corporation の登録商標です。

凡例



注意: 注意アイコンは、指示に従わなかった場合に、ハードウェアの損傷やデータの損失につながる可能性があることを表しています。



警告: 警告アイコンは、物的損害、人身傷害、または死亡事故につながるおそれがあることを示します。

 **重要な注、注、ヒント、モバイル、ビデオ:** 情報アイコンは、サポートされる情報を示します。

テクニカル サポート リソース

テクニカルサポートは、有効な保守契約が付属する Quest ソフトウェアを購入している場合、または試用版を保有している場合にご利用いただけます。サポートポータルを利用するには、「<https://support.quest.com/>」にアクセスします。

サポートポータルには、問題を自主的にすばやく解決するために使用できるセルフヘルプツールがあり、24 時間 365 日ご利用いただけます。また、ポータルでは、オンライン サービス リクエスト システムを使用して、製品 サポート エンジニアに直接連絡することもできます。

サイトでは次のことを実行できます。

- サービス リクエスト(ケース)の作成、アップデート、および管理
- ナレッジベース記事の参照
- 製品に関するお知らせの入手
- ソフトウェアのダウンロード試用版ソフトウェアを入手するには、「<https://support.quest.com/>」にアクセスします。
- 入門ビデオの閲覧
- コミュニティ ディスカッションへの参加
- サポート エンジニアとのチャット

サードパーティソフトウェア

本製品には、次のサードパーティ コンポーネントが含まれています。サードパーティのライセンス情報(下記の表に示す)については、「<https://www.quest.com/legal/license-agreements.aspx>」にアクセスしてください。アスタリスク(*)が付いているコンポーネントのソース コードについては <https://opensource.quest.com/> を参照してください。

コンポーネント	ライセンスまたは承認
AutoMapper 2.0	このコンポーネントを使用するには、 MIT 1.0 ライセンス を遵守する必要があります。
CommandLineParser 1.9	Copyright 2005-2012 Giacomo Stelluti Scala. このコンポーネントを使用するには、 MIT 1.0 ライセンス を遵守する必要があります。
Crypto++ 5.6.1	Compilation Copyright © 1995-2009 by Wei Dai. All rights reserved. Portions contributed by Wei Dai. このコンポーネントを使用するには、 Crypto 5.6.0 ライセンス を遵守する必要があります。
Entity Framework 4.2	このコンポーネントを使用するには、 Apache ライセンス を遵守する必要があります。
jQuery 1.4.4	Copyright 2012 jQuery Foundation および本製品に使用されているその他のサードパーティ ソフトウェア このコンポーネントを使用するには、 MIT 1.0 ライセンス を遵守する必要があります。
jQuery UI 1.9.0	Copyright 2010 John Resig. http://jquery.com/ このコンポーネントを使用するには、 MIT 1.0 ライセンス を遵守する必要があります。
jQuery Validation 1.11	このコンポーネントを使用するには、 MIT 1.0 ライセンス を遵守する必要があります。
Json.NET 4.5	Copyright (c) 2007 James Newton-King. このコンポーネントを使用するには、 MIT 1.0 ライセンス を遵守する必要があります。
Knockout 2.2	このコンポーネントを使用するには、 MIT 1.0 ライセンス を遵守する必要があります。
Log4Net 1.2.11	Copyright 2001-2006 The Apache Software Foundation. このコンポーネントを使用するには、 Apache ライセンス を遵守する必要があります。
LumenWorks 3.8.0	LumenWorks.Framework.IO.CSV.CachedCsvReader Copyright (c) 2005 Sébastien Lorion. このコンポーネントを使用するには、 MIT 1.0 ライセンス を遵守する必要があります。
Modernizr 2.6.2	このコンポーネントを使用するには、 MIT 1.0 ライセンス を遵守する必要があります。

WebGrease 1.1

このコンポーネントを使用するには、[Apache ライセンス](#)を遵守する必要があります。

zlib 1.2.3

Copyright ©1995-2005 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

このコンポーネントを使用するには、[Zlib 1.2.3 ライセンス](#)を遵守する必要があります。
